



林業福島

No. **702**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 小檜山善継



2

2023

監 修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 雪化粧の中に



一歩ずつ 着実に

福島県市長会会長
相馬市長 立 谷 秀 清

『林業福島』をご覧の皆さまには、県内各地域の林業振興と森林管理に多大な御尽力をいただいておりますことに、この場をお借りして御礼を申し上げます。

はじめに、今なお私たちの生活に大きな影響を及ぼしている新型コロナウイルス感染症については、国内で初感染が確認されてから既に三年が経過しますが、ウイルスは変異を繰り返しながら免疫をすり抜け、現在、第八波となる感染増加に直面しております。県内においても感染者数が増加し、発熱患者の来院増加やクラスターの発生などによっても医療提供体制への負荷が高くなっており、一般医療への影響が生じています。感染対策としては、まず社会的な防衛態勢を構築することが大切であり、多くの方にワクチンの接種をしていただきたいと考えております。第七波の際の相馬市内の感染者を調査したところ、ワクチンを適正回数接種された人よりも未接種者や適正回数未満の方が、感染するリスクが高い傾向であることがわかりました。私たち自治体は希望する住民の皆さんが速やかに接種を受けられる体制の構築に努めてまいります。

さて、戦後造成された人工林の多くが本格的な利用期を迎えております。この豊富な森林資源を循環利用することにより、国土の保全や地球温暖化防止等の森林の有する多面的機能を確保しつつ、様々なSDGsの達成に貢献していくことはもとより、生業として成り立つように林業の成長産業化と森林の適切な管理を両立していくことが求められております。また、二〇五〇年カーボンニュートラルの実現に向け、森林には大気中の二酸化炭素の吸収源として大きな役割が期待される一方、人工林の高齢級化等が進み、森林吸収量が長期的に減少傾向にあることから、その向上を図ることが重要となっております。

しかしながら、林業の担い手不足や効率的かつ適正な森林整備の推進、木材の安定供給体制の構築、激甚化・頻発化する自然災害に対する山地防災力の強化、原油価格・物価高騰やウッドショックにより影響を受けている林業者等への支援など、多くの課題が山積していることは、本県においても同様と感じております。

そのような中、森林・林業・緑化協会をはじめ林業団体の皆さまには、豊かで活力ある森林を次の世代へ受け継ぐための事業に取り組んでいただいております。福島県市長会としましても県や関係機関と協力しながら、一歩ずつ着実に取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後とも一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

《も く じ》

とびら

一歩ずつ 着実に

- 福島県市長会会長 相馬市長 立 谷 秀 清 … 1
- 農林水産部 公式YouTube … 2
- 林業研究センターだより … 3～4
- 「福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム～福島の森と木の親子体験オンライン教室2022～」の開催 … 5
- 山火事防止に努めましょう … 6

- 林業アカデミーふくしま研修日誌⑨ … 7
- 「新たな森林づくり」⑦ … 8
- 福島県林業労働力確保支援センターだより … 9
- 木連だより … 10
- 木の文化を育む④⑦ … 11
- 木材市況・ふくしま東西南北 … 12
- はなしのひろば・お知らせコーナー … 13

農林水産部 公式YouTube

福島県農林企画課

福島県農林水産部では、県産農林水産物の魅力や生産現場の情報を広く発信する取組として「福島県農林水産部FA宣言」を昨年六月に開始しました。

この取組は、県産農林水産物のブランド力強化の一環で、農林水産物や農山漁村の魅力、産地を支える生産者の姿、各種イベントなど旬の情報を、職員自らが直接取材し、動画などにより県内外に発信していくものです。

○県職員がFA宣言？

取組の愛称である「福島県農林水産部FA宣言」の

FはFukushima (福島) & Forestry (森林林業)、Fishery (水産業)、AはAppeal (アピール) や Agriculture (農業) を意味します。

約一、四〇〇人の農林水産部の全職員が、自分の担当する業務だけでなく、所属にとらわれずに自由なテーマ・発想で動画を制作・発信する取組です。

※通常業務に支障のない範囲で取り組んでいます。

○公式YouTubeチャンネル

「1400のネタばらし」職員自ら制作した動画は、農林水産部公式YouTubeチャンネル「1400のネタばらし」で公開しています。

令和五年一月現在において、森林林業分野では林業アカデミーのハーベスタシミュレータなどの動画を公開しています。このほか、農業分野では米、野菜、果樹、畜産等の生産者インタビューや生産現場を紹介する動画、農村整備分野ではドローンを活用した測量技術を紹介する動画、水産分野では、近年水揚げが増えているトラフグ「福とら」の漁に密着する動画など計一二〇本を超える動画を公開しています。

○林業関連の動画はこれ！

今年度、本格開講した「林業アカデミーふくしま」に整備されている

ハーベスタシミュレータに職員がチャレンジする動画のほか、県オリジナルほんしめじ「ふくふくしめじ」の動画、治山事業で整備したのり枠や治山ダムをドローンで撮影した動画、林道の紹介、農業高校生による林業見学会の動画など一五本の森林林業関係の動画を公開しています。

今後県内の農林水産物、農林水産業に関する動画を随時公開していきますので、チャンネル登録もお願いします！



YouTubeの検索欄で「福島県農林水産部」と検索するか、下記の二次元コードをスマートフォン等で読み込んでください。



森林林業関係動画のサムネイル (一部)

林業研究センターだより

福島県におけるクロモジ資源の持続的利用に向けた研究



クロモジの挿し木苗

福島県林業研究センター

1. 近年のクロモジ由来商品人気の高まり

クロモジ (*Lindera umbellata*) はクスノキ科クロモジ属の低木性落葉

広葉樹であり、本州、四国、九州の丘陵地から山地帯の林地に分布しています。緑色の若枝にところどころ黒い斑模様があり、それが文字に見えることがクロモジ(黒文字)の名前の由来とされています。雌雄異株であり、春先には淡黄色の小さな花が一〇〜二〇個集まった花序を形成し(図1)、八月頃に黒熟した果実がみられます。クロモジは古くから香木として親し



図-1 クロモジの花

まれており、枝や幹が和菓子用の高級爪楊枝や生薬(烏樟)として利用されてきました。

近年では、クロモジに多く含まれている香氣成分のリナロールが香料



図-2 クロモジ精油
資料：(株)一十八日HP

として人気の高いローズウッドに香りが似ていること、鎮静作用、抗菌作用、抗炎症作用がありインフルエンザウイルス増殖抑制効果が認められていることから、アロマ用精油や薬用酒等の原材料としての需要が高まっています。

最近の例で言えば、九州を走行するクルーズトレイン「ななつ星」の客室通路でクロモジを使用したアロマが利用されたり、各地でクロモジ精油蒸留体験ツアーが開催されたりと、クロモジに注目が集まっています。

福島県においても主に南会津地域においてアロマ用精油の原材料として採取が行われ、株式会社一十八日

が、アロマ用精油、フローラルウォーター、スプレー等の商品開発を進めています(図1-2)。

2. 研究の背景と目的

現在のクロモジの採取は、山に自生する個体のみを対象としているため、採取に適した樹高二〜三層程度のクロモジが、アクセスの良い林道近くの森林から無くなりつつあります。また、精油抽出までのコストが大きく、採取に労力がかかれば精油生産にかかる採算が合わなくなることも懸念されています。以上のような現場課題を受け、当センターではクロモジ資源の持続的な資源利用や、採油コストを低くおさえるための各種試験研究を令和元年より進めております。今回は、現在の研究概要をみなさんにお伝えしたいと思

います。

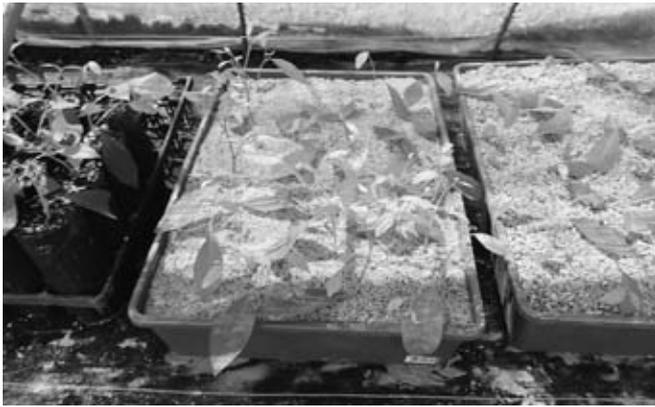
3. 南会津産クロモジ苗木生産のための研究

クロモジ資源を持続的に利用する方法の一つとしては、クロモジ苗木を生産してアクセスの良い森林に植栽することが考えられます。一方、県内では南会津産のクロモジ苗木の生産・流通は行われておらず、現地産の苗木を増やしたいという要望も

聞かれるところです。そこで、クロモジを増やすための手法として、挿し木や実生による苗木増殖方法を調査しました。

挿し木苗による増殖方法の検討として、クロモジの緑枝（その年に伸びた枝）を用いて六月下旬に挿し木を行った場合、発根率が約八〇％以上という良好な結果が得られました（図一三）。さらに、積雪の多い南会津地域では、冬季は苗木の養生施設としてビニールハウスの使用ができないため、ハウスを用いない冬季養生方法の検討も行っております。

また、実生苗による増殖方法とし



図一三 クロモジ挿し木苗

て、まずは効率的な種子採取方法を検討しました。昨年の六月に測定した自生クロモジの種子数と樹高の関係を比較し、種子を採取する母樹に適した樹高を検討しました。また、昨年の九月に採取した種子を用いて、現在発芽試験を実施中であり、今年五月頃に発芽率の測定を行う予定です。

現場でクロモジ苗木の増殖を実施する場合には、実生苗の方がより生産しやすいかと思いますが、もし伝統的に精油成分が多い優良個体等が今後得られれば、同一の特性を引き継ぐ挿し木による増殖方法が有効となるものと考えられます。

4. 精油採取コスト低減のためのクロモジ内の精油分布の研究

クロモジの採取は森林内において根元から伐採、車で運搬、一本丸ごとチップパーにより粉碎し、その後、水蒸気蒸留によって精油の抽出を行っています。さらに南会津町のクロモジ精油生産者によると、年間約一〇トのクロモジが伐採され抽出に利用されていますが、精油

量は重量割合でわずか〇・二割程度であり、精油を得るための製造コストが課題となっています。そこで、精油抽出までのコストを低下させる採取方法を検討するため、クロモジのどの部位に精油が多く含まれているかを調査しました。

採取したクロモジを葉、細枝、太枝、幹にわけ、精油定量器を用いて水蒸気蒸留による精油の抽出を行いました（図一四）。その結果、抽出された精油量のうちの七〇％以上が葉と細枝から抽出され、個体重量の大半を占める幹から抽出される精油が少ないことが明らかになりました（図一五）。つまり、運搬や粉碎に多大なコストがかかる幹を採取するよりは、枝葉のみを採取した方が運搬や粉碎のコストは低くなり、さらに精油抽出率の向上が期待出来ること

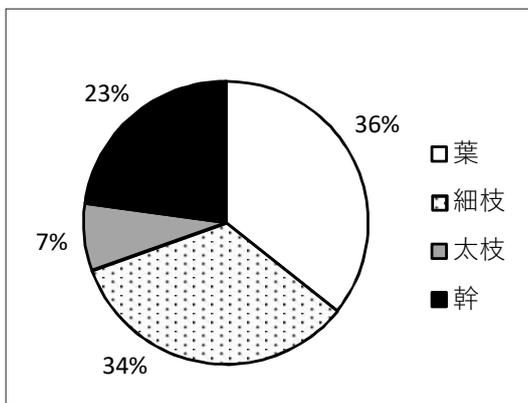


図一四 使用した精油定量器

が分かりました。以上の結果を基に、今後、枝葉を採取した幹の萌芽による再生方法を確認しつつ、最も採油効率の高いクロモジの採取方法を検討する予定です。

5. まとめ

現在検討している技術を確かなものとし、今後、現地実施を行うことで、南会津産クロモジの地域ブランド化に貢献することができると考えております。これからも、安定的・持続的なクロモジ生産を行っていくうえで必要な手法を継続して研究していきますので、新たな知見が得られればお伝えして行きたいと思っております。



図一五 部位別精油量割合 (%)

「福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム」 「福島の森と木の親子体験オンライン教室2022」の開催

(一社) 全国林業改良普及協会 (事業受託団体)

「森林・林業再生に向けた普及啓発事業(林野庁)」シンポジウムは、二〇二〇年からオンラインにより行っており、今年度は十一月十九日に、初めて福島県内からライブ配信を行い、福島県・東京都を中心とした全国五〇〇組の親子等約一、三〇〇人の参加を得ました。同シンポジウムは、福島の森林・林業の再生に向けて、森林内の放射性物質の動態や林業再生に向けた技術など、これまでに得られた科学的知見などを分かりやすく伝える目的で二〇一四年から開催され、二〇一九年からは幅広い世代へ情報を発信するため、親子を対象に実施しています。参加者は、事前学習として動画視聴や各家

庭に配布された体験キットのうち、なめ栽培キットを約二週間前から育てながら、配信当日を迎えました。配信では、①福島の森のハカセになろう(森林内の放射性物質の状況の解説)、②森と木に親しもう(各家庭に配布した四種類の端材の解説、木工体験)、③きのこの不思議(きのこ生産現場等の解説、収穫体験)の三つのプログラムにより、楽しみながら学び、体験をしました。配信中は参加者によるチャットを通じた質問やリアクションの書き込みが活発に行われ、また、過年度は配信終了後に各家庭で体験していた「木工(研磨)体験」を、初めて配信中に実施し、よりライブ感のあるプ

ログラムとなりました。最後に「もっと知りたい・体験したい」参加者に向けて、福島県内の森林体験施設と、農林水産省 m a f f チャンネル内の動画コンテンツ「福島のもり応援隊」を紹介し、配信後にも福島の森林・林業を応援するアクションにつなげられるよう工夫をしました。終了後に行ったアンケートでは、福島県外の参加者からは、「森や木のこと知れて、もっと知りたい」と興味を湧いた(子)、「放射線のことを詳しく知ることができた(子)」、「子どもと一緒に木を触って感じる」ことができ、楽しかった(親)といったコメントの他、「福島が大好きになった(子)」、「食べて支える、訪れて支える」という行動を起こしていきたい(親)等の福島を応援する声が非常に多く寄せられました。また、福島県内の参加者から、「森の放射線量が減っていることがわ

かった(子)」、「きのこの産地を知ることがなかったけど、これからは見たい(子)」、「震災を経験していない子ども達に放射線のことを教える方法がなかなか無い中、とても分かりやすい教材となっていた(親)」等が寄せられ、福島の森林・放射性物質等の実情を知ってもらおう機会となりました。最後になりましたが、福島県はもちろん、福島市と東京都港区には市内の全小学校に告知チラシを配布いただくなど、シンポジウムの実施にあたり多大なるご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。



▲配信会場の様子。写真上から、司会：フリーアナウンサーの長久保智子氏、講師：森林総合研究所篠宮氏・小松氏、(有)M&Aふぁーむ・わたなべ渡邊氏、(株)マストロ・ジュッペット 児山氏 (有)児山製作所)・渡部氏

▼シンポジウムの配信アーカイブ等映像コンテンツは、YouTubeで「福島のもり応援隊」で検索または下記からアクセス

▲参加者のSNS投稿からも楽しんでいる様子が分かります



山火事防止に努めましょう

火の確認 山を愛する あなたのマナー

福島県森林保全課

○山火事の発生時期

例年、冬から春にかけて山火事の発生が多くなります。これは、冬は下草が枯れ、落葉が積もって「燃えやすいもの」が林内に蓄積されるとともに、風が強く、雨が少なく、空気が乾燥する状態が続くことが大きな要因です。

また、暖かくなる春は山菜採りなどで山に入る人が多くなること、農作業が始まる時期とも重なり、田畑や自宅の周辺などで火を使用する機会が多くなるのが原因として挙げられます。

特にこの時期は、出火すると短時間に燃え広がりやすいことから、初期の対応が遅れると大規模な山火事に拡大する恐れがあります。

○山火事の発生原因

全国で令和三年に発生した山火事

(林野火災) は一、二二七件であり、その原因で最も多いのは「たき火」三七五件、次に「火入れ」二四七件などとなっております。^{※1}

県内では、令和三年に四一件の山火事が発生し、そのうちの三四件が一月から五月の期間に発生しており、そのほとんどがたき火などからの飛び火が原因となっています。^{※2} 山火事の発生原因の多くは人為的な不注意によるものであり、一人ひとりが注意をすることで多くの山火事を防ぐことができます。

○山火事を発生させた場合の責任

森林法では、森林に放火をした者に対してだけでなく、失火により森林を延焼させた者に対しても罰則規定があります。

山火事を発生させてしまうことは大変重大なことであり、火の取り扱いに注意することを心がけましょう。

○山火事を発見したら

山火事の消火活動は、市街地の火災に比べ、道路、水利、地形などの条件から非常に困難であり、自力での消火は大変危険です。

山火事が発生、発見した場合は、すぐに消防署へ通報するようお願いいたします。

○山火事を発生させないために

山火事を発生させないためにも、私たち一人ひとりが次のことに注意をして、山火事予防に取り組みましょう。

- ① 枯れ草等がある場所では、火災が起こりやすいため、火を使わないこと。
- ② 強風及び乾燥時には、たき火、火入れをしないこと。
- ③ やむを得ず火を使用する場合は、火気のそばを離れず、使用後は完全に消火すること。
- ④ 火入れを行う際は、市町村長の許可を必ず受けるとともに、十分な実施体制をとること。
- ⑤ たばこは、指定された場所で喫煙し、吸い殻は必ず消すとともに、投げ捨てをしないこと。
- ⑥ 火遊びはしない、させないこと。

○おわりに

どんなに小さな火でも燃え広がれば大きな森林も破壊してしまいます。私たちの暮らしに欠かせない水源かん養や県土の保全など森林の持つ大切な役割を失ってしまうことになり、燃えてしまった森林がもとの姿に回復するまでには、何十年もの月日と多大な費用を要します。

ふくしまの豊かな森林から山火事を発生させないよう県民の皆さん一人ひとりの御協力をお願いします。

※1 総務省消防庁公表資料（令和四年十月二十八日付）より

※2 農林水産部 森林保全課の集計より

森林保険

山火事などの災害に備え、森林保険に加入しましょう。くわしくは、最寄りの森林組合、または森林組合連合会へ御相談下さい。



森林保険イメージキャラクター
マモルくん

林業アカデミーふくしま研修日誌⑨

福島県林業研究センター

十二月は多くの実習があり、技術的な経験を豊富に積んだ一ヶ月でした。

○十二月の研修内容

「林内路網」講座では、七日間に渡り、設計や指示どおりに森林作業道を作設するために必要な技術の習得に努めました。始めの四日間は、

白河市の南湖建設機械講習所において、現場で活かせる動作を複数教えていただき、目的の動作をスムーズに行えるように繰り返し練習しました。その後、いわき市内の森林において森林作業道作設実習を行いました。(有)田部林業の田部専務にご指導いただきながら現場に重機を入れる前の伐開や枝条整理から、重機を用いた表土移動や心土の整地・転圧までを、これまでに得た知識や技術を駆使しながら実践しました。

「チェーンソー伐木造材技術」では、妙見山実習フィールドや田村市内の森林等で伐木造材実習を行いました。講師は林材業災害防止協会福

島県支部や田村森林組合の方々にお引き受けいただき、立木の伐採から造材の一連の作業や、フェリリングレバーやチルホールを活用したかかり木処理の実習を行いました。現場実習ならではの貴重な経験や学びを得た研修生たちは、今後の研修の中でそれらを活かし更なるスキルアップを目指します。

続いての「広葉樹伐木造材技術」は、西会津町の森林等で行いました。これまで主に針葉樹に触れてきた研修生たちは、材の硬さや樹形など、複数の特性が広葉樹と針葉樹で異なることを、経験と共に知りました。

西会津町森林組合や(有)田部林業にご指導いただきながら、実習現場に入る前のKY(危険予知)活動や、深い積雪の中での作業、班で協力した作業など実践的な経験を積みまし

た。実習の中で生産した丸太はきのこ原木として出荷される予定のため、傷を付けないよう、より一層丁寧な作業を行いました。

年内最後の研修となった「樹木学・樹木調査」では、福島大学の金子教授に講義いただいたり複数の植物の枝や種子を観察するとともに、林業研究センター敷地内で材料となる植物を採取し門松づくりを行いました。完成した三つの門松の写真は、これまでの様々な研修の様子と共に林業アカデミーふくしまのフェイスブックページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

○研修生の感想 小泉朋也さん

十二月のアカデミーの研修は、現場を意識したかなり実践的な内容が多くありました。一つはバックホー

による林内路網です。そもそも傾斜地でバックホーを動かすというのも新鮮でしたし、転圧やならしも少しずつスムーズにこなせるようになって、新たな経験と刺激を得ることができました。もう一つは林内での伐

木造材です。針葉樹と広葉樹両方の伐倒を経験しましたが、切る感覚も倒れるタイミングも、森全体の見え方もそれぞれに違ってとても興味深いものでした。これらの研修から、経験のないものを実際にやってみたり、自分で考えて工夫してみたりすることの大切さを学びました。有意義な時間はあつという間にすぎるとなり、残りの研修もあと三ヶ月ほどとなりました。必要な情報を全て吸収できるように、今後も精進していきます。



重機を操縦する研修生を講師や仲間が見守る



スギ立木を伐倒する研修生



広葉樹伐木造材の指導を受ける様子

シリーズ「新たな森林づくり」⑦

原木林の再生に向けた森林整備

広葉樹林再生事業

福島県森林整備課・県北農林事務所

一、広葉樹林再生事業の概要

放射性物質の影響により、きのこ原木や薪炭用原木として利用可能な指標値を超える原木林については、原木の生産が停止しているため、原木林の更新に必要な伐採が停滞しています。

このため、かつて原木林であった広葉樹林を対象に、次世代への更新に必要な伐採や植栽、下刈り、作業道の整備等による、きのこ原木林等の再生を図るための取組を支援しています。

また、次世代への更新を行った箇所については、県により放射性物質の影響を継続的に調査しています。

事業内容

【市町村等に対する補助】

- 市町村による条件整備（同意取得等）
- 更新に必要な伐採や植栽、下刈り、作業道の整備等

【県実施】

- 萌芽枝等の放射性物質濃度調査等

二、取組事例の紹介

県北管内では、令和二～三年度まで森林組合が主体となり、伊達市、二本松市で八・一三の更新作業に取り組んできました。令和四年度からは、広葉樹林の計画的な再生に向けた取組をさらに推進していくため、市町村が主体となり「広葉樹林再生プラン」を作成し、地域の状況に応じた再生の取組を四市町村で進めています。

令和四年度は、事業対象となる森林を選定し、条件整備及び更新に必要な伐採等を表1のとおり実施しています。

事業を取り組む上での課題として次の三点が挙げられます。

(1) 森林所有者との合意形成

コナラ等の広葉樹林を皆伐して利用することは、原発事故後は行われていないことから、広葉樹の伐採と土砂災害の発生を結びつける森林所有者も多く、更新伐施業に対する施行同意が進まないこと。

(2) 更新後の保育に係る担い手確保及び技術継承

原木林の再生を図るためには、伐採後、萌芽整理等が必要であり、施業は人力となるため、担い手の確保及び技術の継承が難しいこと。

(3) 大径化による萌芽力の低下

広葉樹林の更新の遅れから大径化している原木林も見受けられ、今後、萌芽による更新が期待できない場合、補植等の更新補助作業の実施方法の確立が必要なこと。

三、今後の取組

県北農林事務所では、課題として挙げた三点のうち、「森林所有者との合意形成」に対しては更新後の萌芽状況の経過を定点で写真撮影したものを用いた分かりやすい資料を作成し、不安の解消を図ることを検討しています。また、「更新後の保育に係る技術継承」については、今年度、市町村、林業事業体を対象に研修会を予定しています。

「大径化による萌芽力の低下」については、更新箇所の萌芽状況を定期的に確認し、市町村等と情報共有を図り対応を検討していきたいと考えています。

四、おわりに

今回紹介した事例の取組は始まったばかりですが、市町村及び林業事業体と連携を図りながら、広葉樹林の再生に向けた体制を整え、この取組を拡大していきたいと考えています。



広葉樹林再生事業実施状況（R3実施、二本松市伊佐沼町）

表1 県北管内の実績と計画 (ha)

実施主体	年度	条件整備	更新作業
森林組合	R 2～R 3	0.00	8.13
二本松市、伊達市、川俣町、大玉村	R 4（見込）	50.43	16.73
二本松市、伊達市、本宮市、川俣町、大玉村	R 5（計画）	45.00	49.00
計	—	95.43	73.86

雇用管理改善と担い手育成の取組状況について

福島県林業労働力確保支援センターだより

◎はじめに

当センターは、担い手の確保・育成・定着を目的に、事業主が行う雇用管理の改善と事業の合理化ならびに就業希望者の就業促進と技能者育成の両面を平成十年四月の設立以来継続的に支援してきました。

今回は、これまでの当センターの活動内容と成果をご紹介します。

◎雇用管理の改善と事業の合理化に対する支援

「雇用管理の改善と事業の合理化についての計画」（改善計画・五年間）を作成して知事の認定を受けた事業体（認定事業体）は、平成十年四月には二四事業体でしたが、平成二五年四月に八三事業体となり、十年後の令和四年四月時点でも同数で推移しています。

しかしその内訳は年々変動しており、二四事業体が廃業等で減少しました。一方、新規に二四事業体が認定事業体となっており、約三割が入れ替わっています。

新たな事業体設立の場合には、当センター職員が就業規則や雇用関係諸規定等の作成を支援するほか、改善計画作成の目的・内容と事業活動の実績確保・評価のポイントや計画申請・報告事務等を指導しています。

さらに、雇用管理改善に関する研修会・相談会の開催や巡回指導等を実施してきており、ここ五年間で雇用保険・健康保険・厚生年金保険の加入率は約十ポイント向上してほぼ九〇パーセントに改善されました。また、コンプライアンスの確保・就業

認定事業体数	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	増減数の計
		83	78	74	76	79	81	80	78	79	
年度内の増減内訳	減少	△5	△5	0	△2	△1	△5	△3	△3	0	△24
	増加	0	+1	+2	+5	+3	+4	+1	+4	+4	+24
	計	△5	△4	+2	+3	+2	△1	△2	+1	+4	±0

※各年度の認定事業体数は第1四半期時点の数値

者の定着向上・労働災害防止・効果的な求人票作成・働き方改革への取組等をテーマとした社会保険労務士等による講演を契機として、事業主や雇用管理者の意識改善が図られてきています。これらの地道な活動により、新規の認定事業体が円滑に確保されるとともに、就業者が安定的に働ける職場環境が確保されてきています。

◎担い手育成に対する支援

林野庁の「緑の雇用」事業は、平成十五年度からスタートしましたが、平成二三年度からは系統的な人材育成制度となり、林業作業士（フォレストワーカー・FW）研修が三年間のメニューで、研修年次に応じてステップアップ

する内容になりました。さらに、就業後五年程度で現場管理責任者（フォレストリーダー・FL）研修、就業後十年程度で統括現場管理責任者（フォレストマネージャー・FM）研修が制度化され、長期に渡ってキャリアアップを支援する制度となりました。

県内の研修取りまとめ機関は、福島県森林組合連合会、磐城林業協同組合、当センターの三団体で、各々の所管毎にOJT研修の実施運営・指導と研修実施状況の監督・検査を行っています。これに併せて、安全指導は林業・木材製造業労働災害防止協会福島県支部が担っています。

また、FWの年次毎に、年間二〇数日間の集合研修を当センターが企画運営して行っています。内容は、十二種類の安全講習等の資格取得と事業体の垣根を越えた統一的な技能研修であり、令和二年度からは全国森林組合連合会により全国統一テキストも整備され、効率のかつ安全な研修体系となっております。

平成二三年度から今年度までの県内のFW三年次修了者は三〇七名に上り、FL研修修了者は当センターが企画運営を始めた平成三〇年度からで一・二名となり、OJT研修の指導者として活躍しています。

事業体側では、「緑の雇用」研修終了者が経営者となるなど事業が浸透し、前述した新規認定事業体でもFW研修を経験した後に独立して起業している事例も見られ、キャリアアップ制度が整備されていることが、新規就業者の積極的な受け入れ・育成意識を醸成しているものと考えられます。

一方、当協会では独自に森林・林業に意欲と技術力を有する優れた担い手やリーダーの育成を目的とした「森林・林業担い手育成セミナー」を開催しているところ です。

◎就業促進に対する支援

当センターでは、「森林の仕事ガイド（全国森林組合連合会主催・開催地は東京都内）」を始め、オンライン就業相談、県林業祭併催の「森林の仕事ミニガイド」電話・メール・訪問による相談対応、磐城林業協同組合との共同改善計画に基づく委託募集、林業就業支援講習（十二日間）等の取組を展開しており、ハローワーク飯田橋の地方就職支援コーナーなども連携しながら、県内外からの新規就業希望者への支援に取り組んでいます。

さらに今年度からは、県内居住者を主な対象に「森林の仕事エリアガイド」（就業相談会、十三事業体が参加）と「森林の仕事現場見学」を「緑の雇用」事業の一環として新たに実施したところ です。



森林の仕事エリアガイド（ラバコふくしま）

◎終わりに

当センターの様々な取り組みが、担い手の確保・育成に効果を発揮しているところですが、林業の給与レベルが比較的低い（年間平均給与が全産業界比で約九〇万円低い）、林野庁「一目で分かる林業労働」ことが、定着率改善の上での大きな課題となっています。森林環境譲与税を活用した他県市町村の取組を参考にした雇用・定着支援対策の積極的な展開が求められるところ です。

また、今後は林業アカデミーふくしまの卒業生も「緑の雇用」事業による技能者育成の対象（一年次の集合研修は免除）となりますので、人材育成の幅広い取組に対する皆様のご協力をよろしくお願いたします。

木連だより

「ふくしま県産材利用推進方針」(令和4年4月改正) 協定第1号
**福島県産材の利用拡大に関する
 建築物木材利用促進協定締結**

福島県と県木連との協定締結式が行われました

県と県木連は、令和四年十二月二十六日、「福島県産材の利用拡大に関する建築物木材利用促進協定」を締結しました。木材の安定供給の促進、放射線量測定による安全性の担保などの取り組みを強化し、森林資源の循環利用、カーボンニュートラルの実現、持続可能な開発目標(SDGs)の達成につなげていく狙いです。

県は、令和四年四月に改正した「ふくしま県産材利用推進方針」に、民間建築物への木材利用を促すため事業者と県による同協定の締結を進めると定めており、本協定が第一号となります。同様の協定は十三都道府県でも結ばれていますが、東北では初めてです。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響等で木材価格が高騰した「ウッドショック」などの経験を踏まえ、県木連は、会員組合事業者の経営安定化等で生産基盤強化をすすめるながら

放射線検知装置の活用により木材の安全性を確認する他、各種イベントや木育活動を通じた県産材のPRなどに取り組み、県は安定供給・流通の円滑化、技術開発などの面で連携、支援を行います。協定期間は令和九年三月末まで。

協定締結式は県庁で行われ、内堀雅雄知事と鈴木裕一県木連会長が協定書に署名しました。



協定書を交わす内堀知事と鈴木会長



(協定内容は次のとおり)

協定の概要

構想の達成に向けた取り組み(県木連)

- ・ 県産材の安定供給体制整備(効率的な加工・流通体制確立のための制度普及等)
 - ・ 森林資源の循環利用(木質バイオマスの安定供給体制構築等)
 - ・ 県産材の安全性の担保(放射線検知装置の活用等)
 - ・ 建築物における県産材の利用促進(JAS製品の普及促進等)
 - ・ 県産材利用に関する意識醸成(イベント、木育活動等)
- 構想を達成するための支援(県)
- ・ 県産材の安定供給体制整備促進(サプライチェーン構築支援)
 - ・ 県産材の総合利用促進(未利用材等の搬出利用支援)
 - ・ 県産材の利用促進(JAS製品等県産材の情報発信、首都圏イベント等の情報提供)
 - ・ 県産材利用に関する意識醸成(木育活動等)

木の文化を育む⁽⁴⁷⁾

郷土愛と知恵を育む〜自然×農×食育体験〜

(そらいろのたね)

郡山女子大学 生活科学科 建築デザイン専攻 准教授 阿部 恵利子

○はじめに

幼少期から青年期にかけて、人や自然、社会と関わりを持ち多様な体験をすることは、五感を刺激し心と体の成長につながります。子ども達が自然観察や体験活動を通して地域社会について学ぶことは、生きるための知恵や地域の伝統文化の継承につながり、生きるチカラと郷土愛を育みます。

○そらいろのたねプロジェクト

二〇二一年に発足したそらいろのたね(須賀川市)は今年で三年目の活動を迎える任意団体です。社会教育団体に加わり、年間を通して社会教育につながる様々なプロジェクトを企画・運営しています。「生命あふれる自然の中で、生きるチカラを育み、共に創る豊かな未来」をスローガンに、多様な地域活性化体験事業を展開しています。これらの活動には地元のみならず果樹園、こども職業体験ゆめのたね、NPO法人はばたけ21夢紀行 音森自

然塾などが協同し、自らもワクワクできるイベントを実施しています。

○自然×農業×食育体験

そらいろのたねは、須賀川市浜尾地区にあるフィールドを「Yum Yum 広場」と命名し、自然体験や農業体験、食育体験ができる活動の拠点としています。四季を感じ、五感をフルに使う農業体験を通して作り育てる喜びを感じると共に、農業への理解を深め、子ども達の自発的な気づきを促します。見晴らしの良い「Yum Yum 広場」には、リングの木が立ち並び、畑や花壇、ピニールハウスもあります。自然に倣い循環する大地を考えながら、自然法によるガーデニング、エディブル菜園造りに取り組み、無農薬の花や野菜も栽培しています。

○宇津峰登山&芋煮会

西音森山から宇津峰の頂上を目指す登山では、森に住む動物や植物、自然環境に関する様々な学びを得ることが出来ます。宇津峰の頂上で美

しい景色を堪能しながら食べるおにぎりは格別です。下山後は須賀川産の野菜を使った芋煮の作り方のポイントを学び、皆で美味しい芋煮を楽しみます。

○食でつなぐ郷土の伝統

「小正月を祝う会」では、団子さしや郷土食を通して郷土の伝統を子ども達へ伝えます。みずの木や団子、一つひとつの飾りにも意味があり、子ども達はたくさん願いを込めて団子さしを楽しみます。また、須賀川伝統の味おこわ、いか人参、豆みそなど、地元のお母さんたちによる手作りの郷土食をいただきながら子ども達は郷土の伝統や食について学び郷土愛を育みます。こどもの日にはこいのぼり工作の他、柏の木探し散策のほか柏餅の試食も楽しみます。「端午の節句」の意味を知る昔話や大豆を使った味噌玉作り体験も郷土の伝統として伝えていきます。

○木のカタラーリ作り

須賀川のみつ果樹園内にある「KOHAKU 広場」で須賀川産木材を使った木のカタラーリづくりを実施し、子どもから大人まで楽しめる「木育」を行いました。須賀川のリングゴヤナシの木を活かしたカタラーリ作りは木の感触や香りを体感しながら、ヤスリをかけて仕上げます。大人から子どもまで楽しめる自然あそびのイベントの一つです。

○ネギを知る会

須賀川市の稲田にある、設楽農園でネギの収穫体験やネギが主役のレシピを学び、自宅でネギ料理を作ります。ネギのルーツや収穫までの工程をクイズ形式で楽しみながら、郷土の野菜を詳しく知ることが出来ます。あまくて美味しいネギ料理がより一層美味しく感じる体験となりました。

○須賀川のいいねを発信

「すががわはばたけ21ニュース」は、そらいろのたねの親子体験イベントを取材して、写真と文、取材後の編集まで子ども達が手掛ける須賀川の魅力を広めるためのメディアです。地域の豊かな自然を五感で体感した活動の魅力を発信しています。

○まとめ

様々な体験が昔ながらの知恵や地域の伝統文化の継承につながります。自然環境を活かした様々な体験を貴方もぜひ実践してみませんか。



木育：地元産の木を活用したカタラーリ作り



素材の価格 〈工場着価格〉 (2022年11月15日現在)

(単位: m当り千円)

十月の原木市場への入荷量は、前月比一三割増(前年比一八割増)の二九、七九五立方メートルとなつてゐる。
 販売量は、前月比一四割増(前年比一八割増)の二九、九三二立方メートルとなつてゐる。
 十一月の価格はじり安となつてゐる。

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	7 (7~7)	△2	(0~0)		11 (11~11)	0	9 (7~11)	△1
		10~14		並	スギ	16 (14~17)	0	(0~0)		14 (14~14)	0	15 (14~17)	0
	中	14~22	3.00	並	スギ	16 (16~17)	△1	15 (15~15)	△2	14 (14~15)	△1	16 (14~17)	0
				並	ヒノキ	17 (17~17)	△1	(0~0)		19 (18~19)	0	18 (17~19)	△1
		20~28	6.00	並	スギ	20 (18~22)	0	21 (12~30)	9	21 (20~21)	0	20 (12~30)	1
				並	ヒノキ	29 (29~29)	△1	(0~0)		29 (29~29)	0	29 (29~29)	0
			3.65	並	スギ	15 (14~15)	0	14 (12~15)	0	14 (13~15)	0	14 (12~15)	0
				並	スギ	14 (13~14)	0	13 (12~13)	1	14 (13~15)	0	13 (12~15)	0
	4.00	並	アカマツ	11 (10~11)	0	(0~0)		10 (10~10)	0	10 (10~11)	0		
		並	アカマツ	10 (10~10)	0	(0~0)		9 (9~9)	0	9 (9~10)	△1		
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	(0~0)		(0~0)		38 (38~38)	0	38 (38~38)	0
				並	米マツ	(0~0)		(0~0)		40 (40~40)	0	40 (40~40)	0
28以下		3.80	並	エゾマツ	(0~0)		(0~0)		36 (36~36)	0	36 (36~36)	0	
			並	アカマツ	(0~0)		(0~0)		36 (36~36)	0	36 (36~36)	0	
4.00	並	カラマツ	(0~0)		(0~0)		36 (36~36)	0	36 (36~36)	0			
	並	カラマツ	(0~0)		(0~0)		36 (36~36)	0	36 (36~36)	0			
パルプ用材			並	マツ	7 (7~7)	0	(0~0)		(0~0)		7 (7~7)	0	
			並	広葉樹	10 (10~10)	0	(0~0)		(0~0)		10 (10~10)	0	

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(0~0)		7 (6~8)	0
	13~14		並	カラマツ	(0~0)		8 (7~8)	0
	16以上		並	カラマツ	17 (14~20)		9 (8~11)	0

- 注) 1. 前月差の△印は値下りを示す。
 2. ()内は各地域の価格幅、()外は各地域の平均的価格を示す。
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
 4. 各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

私の生まれ育った会津若松市の街中に小さな山があります。下から見上げて一見ただの森に見えますが、国の史跡に指定されている会津大塚山古墳という立派な前方後円墳となつており、東北では最も古い時期の古墳の一つで、四世紀頃に造られたとされています。

案内板を辿つて数十段ある階段を上り頂上までたどり着いてみると、なるほど確かに前方部に小高い後円部がくつついていゝるよゝうな地形になつてゐる事が分かります。現在は木々が生い茂つてゐるため見晴らしが良いとは言えませんが、東側は磐梯山が、西側は会津盆地を見渡す事が出来、なかなかの眺めです。頂上には割れた岩の板が置いてあり、子供の頃来た時には大きな岩があるなとか思つてゐませんでした。なぜここに置かれてゐるかは分かりませんがどうやら別の所から出土した石棺の蓋のようです。



太古の歴史

福島県会津農林事務所 今山美央

中であつた出土品については国の重要文化財として指定されており、今は福島県立博物館で見ることが出来、かつて大昔この地にあつた生活や文化を垣間見ること出来来ます。会津の歴史といへば幕末を思い浮かべる方が多いと思ひますが、たまには太古の歴史に思ひを馳せてはいかがでしょうか。

はなしの
ひろば

流儀

我が家では、一時、猫七匹、犬一匹と暮らしていたが、この二二年の間に亡くなったり、恋の季節に出たまま帰ってこなかったりで、今は、目も開かない内に拾ってきた三匹の内の一匹だけとなってしまった。「十二歳のかんな」である。知らない人が見たら狸と間違えるほどの風体であるが、おしゃべりで人なつこくて声が可愛い。このかんな、三年前の春先からその年の十一月の雪が来る前までの七ヶ月間、夜七時三〇分頃になると決まって外に出たがった。外に出すと迷わず西の方に歩いていき、朝六時三〇分頃に帰宅するというルーティンがあった。どこぞに向かっているのか、皆目見当がつかない。通い妻ならぬ通い猫か？だが、ある日パタッとでかけなくなった。何があつたのか知る由はないが、決まった我が家があるにも関わらず、十二時間限定でどこかで飼われていたのだろうか。などと想像をしていたある夜、白地に黒がまだらに入つたイケメン猫が、サッシ越しにこちらを覗いているではないか。それから二週間ほどイケメン猫の通い夫は続いたが、かんなの素っ気なさに愛想をつかして来なくなつてしまった。イケメン猫とかななの関係も定かではないが、猫には猫の事情がある。飼い主としては、その事情を勝手に探るのが至極の愉しみである。

かんなは、今日も真剣に右手（右前足？）で掬って水を飲みながら「これが、私の水飲みの流儀よ」とチラッとこちらを見る。十猫十色、生き方も水飲みも痛快な流儀である。

表紙の写真



「雪化粧の中に」

第19回ふくしま森林・林業写真コンクール
奨励賞
受賞者 岩塚昭広さん（いわき市）
撮影場所：いわき市三和町
コメント：寒さの中に木のぬくもりを感じました。

編集

発行人

福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
（福島市中町五番一八号県林業会館内）
飯沼隆
陽光社印刷株式会社
（定価 一〇〇円）

お知らせコーナー

第37回ふくしま緑の写真コンクール表彰式開催

緑の素晴らしさ、大切さを広めていくため1985年に指定しました「ふくしま緑の百景」を中心に豊かな緑を題材として募集を行った「第37回ふくしま緑の写真コンクール」の表彰式が昨年12月4日（日）に福島民報社において行われました。

今回も、県内各地より幅広い年齢層の皆様から611点に及ぶ多数のご応募をいただきました。どの作品も、奥山から里山の森林や動植物、家族での身近な公園散策など、緑へ寄せる熱い想い、ふるさとへの深い慈しみを感じることでできる力作です。

特選及び金賞の受賞者は次のとおりです。その他の銀賞、銅賞、入選、佳作の受賞者、作品を含め全52点については、福島県森林・林業・緑化協会のホームページに掲載しております。是非ご覧ください。

賞	氏名	住所	テーマ
特選	鈴木 孝男	いわき市	光る森の中へ
金賞	梅津 直樹	福島市	森の大王アラル!
	澁谷 謙治	福島市	雄国沼の目覚め
	小柳 光市	郡山市	朝の詩
	亀岡 芳雄	会津若松市	深山の春
	矢作 武一	古殿町	集落



特選「光る森の中へ」



金賞「森の大王アラル!」



金賞「雄国沼の目覚め」



金賞「朝の詩」



金賞「深山の春」



金賞「集落」

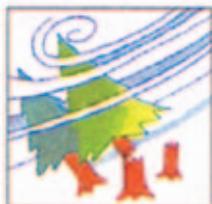
備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



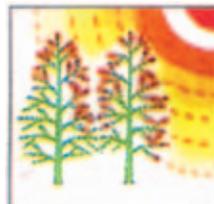
3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



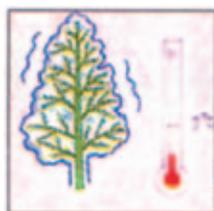
4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)
または最寄りの森林組合

イワフジのGPシリーズ
グラップルプロセッサ

GP-35B

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

製品情報



傾斜地に対応した全旋回チルトプロセッサ

- ・最大38度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
- ・全旋回ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
- ・サイドカッタ解除機能により曲がり材に対応
- ・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材
- ・GP-8コントローラを搭載
- ・新開発のスタッドローラ(オプション)

For the future with forest

イワフジ工業株式会社

<http://www.iwafuji.co.jp/>



(仙台支店) 〒981-3133 宮城県仙台市泉区中央1丁目16-6
TEL 022-347-3689 FAX 022-347-3699
(本社・工場) 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1
(支 店) 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中四国・九州



いざという時、あなたの備えは万全ですか？
福島ミドリ安全の防災対策

- 企業防災のご提案
- 保管スペースのご提案
- 災害時のゴミ対策



その日を恐れるのではなく、その日に備える



福島ミドリ安全株式会社
代表取締役社長 白石昇央

【本社】〒963-8550 福島県郡山市桑野4-1-22
TEL.024-923-5178・FAX.024-923-5211
E-mail info@f-midorianzen.co.jp



人と共に 緑と共に

For Professional



BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

ZHM1550RR



SR3100

For Professional



GZ3950EZ
排気量 39.1cc

GZ4350EZ
排気量 43.1cc



刈幅：1500mm 出力：27.5kW



破砕径：200mm 出力：18.4kW



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店
(有) うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1